

# 経営比較分析表

北海道 黒松内町

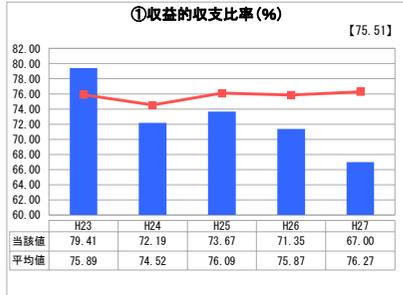
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	84.22	3,920

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,023	345.65	8.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,503	13.15	190.34

## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [ ] 平成27年度全国平均

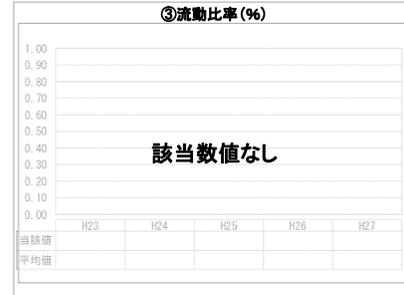
## 1. 経営の健全性・効率性



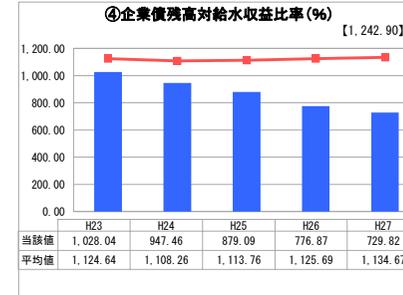
「単年度の収支」



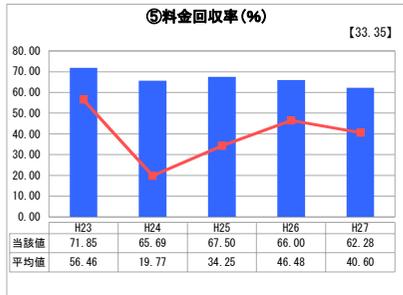
「累積欠損」



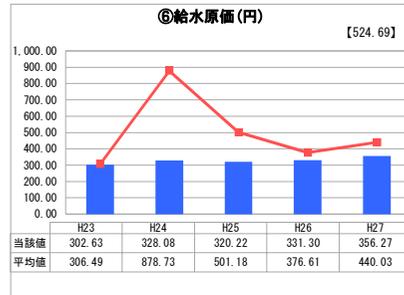
「支払能力」



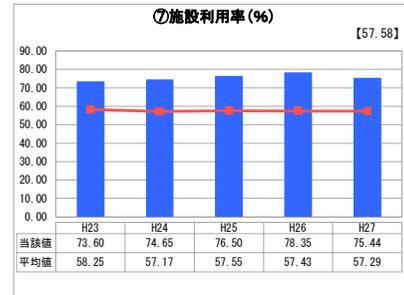
「債務残高」



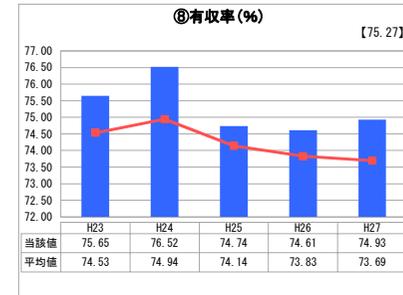
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

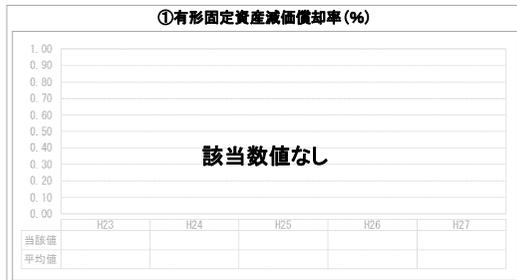


「施設の効率性」

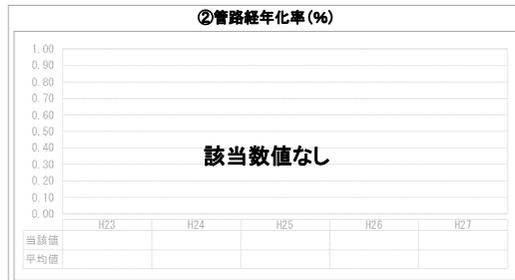


「供給した配水量の効率性」

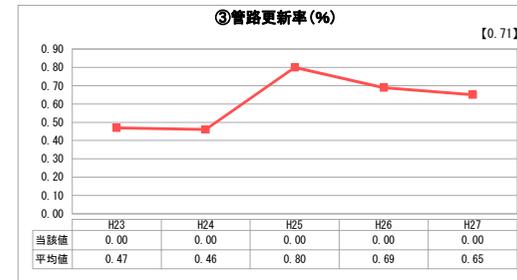
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率については、類似団体と比べ低くなっており、維持管理費用等の削減や抑制が必要と思われるが、企業債務高対給水収益比率は類似団体と比較して少なく、債務は軽いと言える。  
また、給水原価や有収率は類似団体と同程度となっており、料金回収率や施設利用率は高くなっていることから、平均を上回る健全で効率の良い経営ができていると言える。

### 2. 老朽化の状況について

・当町の簡易水道は3地区あり、それぞれ昭和51年度、平成10年度、平成15年度供用開始となっており、最も古い管路で供用開始から40年経過している。  
現在まで管路の更新は行ってこなかったが、今年度より重要度の高い配水管の更新工事を行っている。  
今後は耐用年数を迎える施設の増加が見込まれるため、中長期的な計画を策定し、更新を進める必要がある。

## 全体総括

・当町の簡易水道事業の経営は、比較的安定していると言えるが、今後、施設の老朽化に伴い更新事業が増加することから、経営状況を正確に捉えながら計画的な更新を行う必要がある。  
また、いっそうの経営の健全性を高めるため、漏水等による有収率の低下を抑えながら、未納額の解消や料金改定の検討が必要と思われる。  
今後は人口減少により、料金収入の減少が予想されることが課題である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。